



IDF PRESS RELEASE

Belfast, 31st October 2017

IDFプレスリリース

2017年10月31日、ベルファスト発

ブレグジットの課題が強調されたIDFワールドデーリー サミット2017ベルファスト

ブレグジット（欧州連合からのイギリス脱退）に関して酪農乳業界が直面するチャレンジとオポチュニティがIDFワールドデーリーサミット2017ベルファストで強調された。

IDFワールドデーリーサミット2017ベルファストで講演したアーラフーズの英国UK法人社長トーマス・ピートランジェリ Tomas Pietrangeli氏は、酪農乳業界は「最近では、政治財政状況における最大の激震」に見舞われていると述べた。

同氏は、「自由貿易の終焉が主なリスクになります。英国の酪農乳業界の健全性を保つには関税や障壁のない貿易条件が必要です。私たちは酪農乳業界と英国経済全般に大きな貢献を果たしている会社であり業界です。」

アーラ社の英国事業は、60億ポンドの粗付加価値GVAと直接および間接的に12万人の雇



用を生み出していると独立の機関が査定している。

ピートランジェリ氏は、英国政府に対して「来年のなるべく早い時期に」同国における農業分野の将来計画を公表するように求め、公表の遅れは酪農乳業界に悪影響をもたらすであろうと付け加えた。

同氏は、「私たちは、EUからは可能な限り最善の貿易条件を引き出す必要があります。適切なブレグジットを確保する必要があります。対EU貿易は英国の乳業会社にとって最も重要な市場になります。英国の酪農乳業は、ブレグジット交渉において重要な役者であると認知されるべきです。貿易条件の制約ゆえに乳業会社が圧力を受ける状況は見たくないと思っています。」

ピートランジェリ氏は、過去5年間では、56%の農場が英国籍以外の労働者を雇用し、加工処理業の41%と第三者の流通会社の60-80%が英国籍以外の労働者を雇用している事実を挙げて、英国以外の労働者が参入できる必要性についても強調した。

同氏は、「最近、この分野で英国政府の語りは活発化しているが、私たちはその詳細を確認する必要があります。」と附言した。

ピートランジェリ氏は、英国政府に対して2022年まで移行期間を設け、輸出入関税を設けることなく、食品スタンダード（規格）、食品安全およびアニマルウェルフェアに関する世界に冠たる規制の枠組み、新規参入者や次世代の酪農家への投資を守るように要請した。

同氏は、「酪農乳業を無視しないでください。ブレグジットからオポチュニティも得られるはずですが、適応には時間がかかります。私たちは確信を持ちたいのです。私たちの声を聴いてもらいたいです。」と述べた。

世界貿易機関WTO駐在ニュージーランド大使デービッド・ウオーカー氏は、ニュージーランドは1983年以来、自由貿易交渉に賛同し、WTOを通じて活動してきたとサミットで語った。ニュージーランドはEUとの貿易交渉が進展するように希望し、英国のEU離脱については、ニュージーランドと英国の取引



を調整中であると述べた。

国際乳製品協会 International Dairy Foods Association の社長兼最高経営責任者マイケル・ダイク氏はサミットで、米国では貿易交渉において深刻な不確実性が続いていると語った。同氏は貿易政策の事前対策が米国にとって重要であると述べた。



翻訳：J I D F 事務局

编者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。